

# 県政も市政も住民のいのちと暮らしを守る姿勢が重要 竹島良子県議を招き、県政・市政報告会開催

6日、上野公悦市議の議会報告会とお花見の会に参加させてもらいました。今回は市政だけでなく県政の課題も知ってもらおうと、日本共産党の竹島県議（長岡市選挙区）を招いての開催となりました。会場の希望館第2会議室は満席になるほど大勢の参加者がありました。

まず、上野市議は3月議会の様子を丁寧に説明し、消費税の増税や行革路線に反対し、市民のいのちと暮らしを守る日本共産党議員団の役割を浮き彫りにしました。

上野議員は、市の新年度予算について、住宅リフォーム助成制度の継続や中山間地域振興事業を強化するなど評価すべき点があるものの、行革路線のなかで総合事務所産業建設グループの集約について十分な検証なしに本格実施することとしたこと、紙おむつ助成事業を大幅に縮

少し、福祉を後退させたことなどを厳しく批判しました。

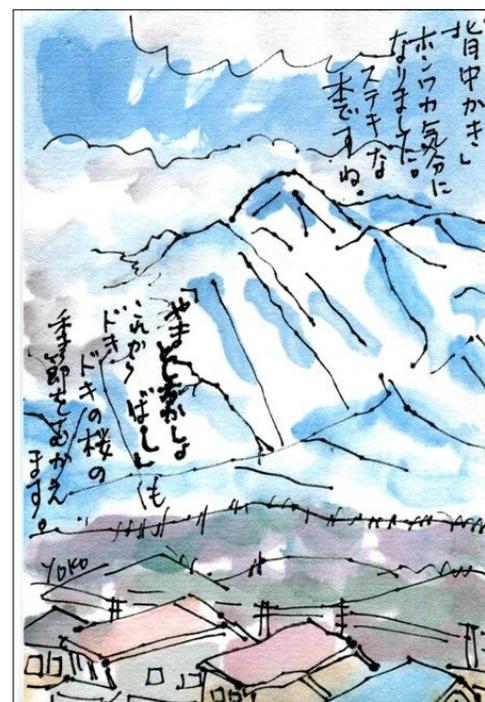
2番バッターは私です。私からはガス水道局所管の入札談合疑惑をめぐるこれまでの経過と今後の取組について話をさせてもらいました。談合疑惑解明のためには議会の積極的な姿勢が欠かせないこと、入札制度を改善し、公正で競争性のある入札にすることによって市民の暮らしを豊かにする財源も生まれる、例えば落札率を新潟市並みに落とすだけで数億円節約できることなどを明らかにしました。

竹島県議は桜の季節に合わせた服装で登場、「まずは全身を見ていただいて……」と看護師だった経歴などを紹介したのち、新潟県政の特徴を明らかにし、県の新年度予算と原発再稼働をめぐる情勢を中心に報告しました。



竹島県議は、県の新

年度予算のなかで福祉や医療など県民の暮らしにかかわる問題点をいくつかあげて説明しました。県単老人医療費助成については、「65〜69歳の『一人暮らし』または『3ヶ月以上常時寝たきり』で所得125万円以下と、ごく限られた人が対象で、平成24年度の実績でも、助成額はわずか543万6千円にすぎません。現行の『本人負担1割』を継続して



高田のYさんからの絵手紙、続きです

も、助成額が大きく膨らむとは考えにくく、これを抑える必要はない」と語りました。

子ども医療費助成については、県市長会と町村会長などが要望している県制度底上げへの明確な方向性が示されていないことなどを明らかにしました。

この他、環境面でも問題の県営ダム建設に35億円余が計上されていること、海洋汚染防止法上の義務付けのない新潟西港の土砂処分場建設着工は、無駄遣いに進む道だと指摘しました。

この日、最も注目されたのは、柏崎刈羽原発問題です。

竹島県議は、「今年は、柏崎刈羽原発再稼働させるのかどうか、せめぎあいの年になる。いま、東電や国や規制委員会に対して、知事が毅然とした態度をとり続けられるかどうか、大事故などところだ。知事は、新規制基準について『福島事故の検証がないままに策定された基準に正当性はなく、原子力発電所の安全を確保することにならない』と答弁し、あくまでも『福島事故の検証・総括が先』という点で一貫している。これを堅持させなければならぬ。そのためにも、原発ゼロを願う多くの方々が共同して運動を大きく広げ、持続することが大事だ」と強調しました。

党議員団は竹島県議と連携して頑張ります。

# 春よ来い 第三〇〇回 帯戸のキズ

「えっ、そういうことだったのか……お釈迦様の誕生日の日に父が逝ってから五年、これまでずっと私たち兄弟など子どもの遊びの傷あとだと思っていたことが、父のクセによるものであることを初めて知りました。

つい先日、父の命日のことでした。専徳寺のご住職からわが家に来ていただき、お経を上げてもらいました。終わってから、居間のコタツでお茶を飲んでいただきました。正確に言うとお茶だけでなく、少しでしたが、コゴミの胡麻和えや赤飯など母の手づくりの料理も食べていただきました。

「うんめね」というご住職の言葉に母も気分をよくしたのでしようね、専徳寺さんがお帰りになってから、居間と座敷を仕切っている帯戸を見つめた母が突然言い出したのです。

「その白いキズはじちやがつけたもんだ。じちやが毎朝、戸を開けて仏壇のお参りする時に爪で傷つけたがだ」

これにはびっくりしました。帯戸についている丸い把手(とつて)のそばの白くなったところは、父の爪のあとだということです。意外でした。縦三〇センチくらい、横三センチほどの白くなったところは、私も気になっていました。かなり目立つし、漆を塗らなければならぬなと思っていました。でも、それが父の爪あとだったとは……。

母によると、父は戸を開けるときに把手に手を入れずに、すぐ近くのところへ手をやって開けるのがクセになっていました。父が戸を開ける姿は私も何度となく見ていましたが、把手に手をかけて開けているものかと思ひ込んでいました。

母の「じちやが……」という言葉聞いたとき、とつさに訊き返しました。「じちやてがは音治郎じちやか」と。当たり前のことかも知れませんが、「じちや」という言葉ですぐ思い出すのは、私の場合、祖父・音治郎なのです。私が子どもの頃、一緒に遊んでくれた祖父のことは、神棚の前でパンパンとやる姿も仏壇の前で手を合わせる姿もよく憶えていたのです。

「ちがうこてや、おらとちやだこてや」

そう言った後、母は「とちやの手は稼ぎ手の手だったこて」とも言いました。確かに父は、体格も良く、手も大きい手でした。庭で米俵を縛っている時とか、牛舎での乳搾りの時の、父の太く、大きな手はいまでも鮮明に思い出すことができます。

わが家の帯戸はわが家が尾神岳のふもとにあった時からのもので、当時は広間と座敷を仕切る戸でした。いまでは少なくなりましたが、当時はあちこちの家に帯戸がありました。

いうまでもなく、帯戸で仕切られた広間は子どもにとっては最高の遊び場のひとつでした。紙風船をぱーん、ぱーんとやったのも、兄弟や近所のコイちゃやエコちゃんどとどと競争をしたり、相撲をしたりしたのもこの場所でした。帯戸にぶつかり、戸板に割れ目がついたのは遊びのせいでしたので、白いところもてつきり、私たちの遊びの結果だと思っていたのです。

「帯戸のキズは父がつけた」母のひと言でこれまで気づかなかった父のクセを知ることができました。また、すっかり忘れていた子ども時代のことも思い出しました。父が旅立った日、わが家の庭では父が最も愛したミニコブシが満開でした。今年も少し遅れてピンク色の花を咲かせています。父が観ていてくれると嬉しいのですが。

## 藤本さんの遺影を前に地域農業発展を誓う



東京農大の教授だった藤本彰三(ふじもと・あきみ)さんが2月に亡くなりました。5日の午後、彼が上越市で設立した株じょうえつ東京農大などによる「お別れ会」が名立区であり、高校時代の同級生とともに



参加してきました。地元の関係者を中心に、20数人が集まり、在りし日の藤本さんや地域農業等を語り合いました。

「お別れの会」での参加者のスピーチや交流で藤本さんが株じょうえつ東京農大の取組で地元の人たちや学生たちと一緒に有機農業を発展させようと努力していたことや留学生たちを大事にしていたことなどを改めて知り、うれしくなりました。

私は藤本さんとは高校を卒業以来ずっと会っていなかったのですが、数年前に越後謙信SAKEまつりで再会、桑取谷での取組などについて語り合うことができました。彼が農業に情熱を持って取り組むことなどは高校

時代、夢にも思いませんでした。これからの中山間地農業をどうするか、大いに語り合えると喜んでいたのですが、とても残念です。でも、彼の思いをひきついでくださる方おられるようなので、一緒に頑張りたいと思います。

### 直江津に旧町「まちしるべ」

直江津区地域活動支援事業により、直江津にもこのほど



「町しるべ」がいくつか立ちました。写真は御幸町の柱。説明文がわかりやすく、素敵です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

|        | 4月2日(水) | 4月9日(水) |
|--------|---------|---------|
| 上越南消防署 | 0.030   | 0.036   |
| 上越北消防署 | 0.050   | 0.050   |
| 新井消防署  | 0.050   | 0.050   |
| 頸北消防署  | 0.050   | 0.050   |
| 頸南消防署  | 0.047   | 0.047   |
| 東頸消防署  | 0.053   | 0.053   |
| 高士分遣所  | 0.053   | 0.057   |
| 名立分遣所  | 0.050   | 0.047   |